

下小島自治区 町政懇談会 会議録

1. 開催日時

平成28年8月31日（水） 午後6時30分～8時10分

2. 対象地区・団体

下小島自治区

3. 代表者・参加者等

佐藤三郎自治区長ほか15人

4. 開催会場

下小島集会所

5. 町出席者

町長 伊藤 勝、副町長 伊藤要一郎、企画情報課長 大竹 享、建設水道課長 成田信幸、町民税務課長 五十嵐博文、企画情報課長補佐 小瀧武彦、企画情報課情報政策係長 佐藤泰久、企画情報課副主査 長谷川祐一

6. 自治区長あいさつ 佐藤三郎 下小島自治区長

町政懇談会を開催しましたところお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。今日は、伊藤町長をはじめ、伊藤副町長、関係課長に出席いただいております。有意義な懇談会となりますようよろしくお願いします。

7. 町長あいさつ及び町政方針説明

今年度の町政方針、町の地方創生の取り組み、重点事業などを説明。具体的には、人口減少・地域活性化対策の地方創生では、「町の資源の活用」「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」「交流人口の拡大」を三つの柱に、活力ある町づくりに取り組む考えであり、「町の資源の活用」では、菌床きのこ栽培の大規模産地化や、森林資源を活用したオガ粉生産、チップ・ペレットなど木質バイオマス燃料生産などを検討する森林資源活用型新産業づくり計画の策定を進めていること、また、道の駅にしあいづに8月2日オープンした「ミネラル野菜の家」などについて説明しました。

「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」では、今年度から出産祝金を第1子目からの支給に拡充し、また、来年4月の開園に向けて認定こども園を整備していることなどを、「交流人口の拡大」では、国際芸術村事業による誘客、移住・定住促進の取り組み、さらに福島ホープスなどスポーツを通じた交流事業について説明。

8. 事業説明

家庭ごみの分け方・出し方について、資料により五十嵐町民税務課長が説明。

9. 地域課題等について

自治区から事前に提出された地域課題等に対して、担当の成田建設水道課長が回答。内容は別紙のとおり。

10. 意見交換等

[質問等]

先ほど町から説明のあった水路の修繕についてですが、平成23年の水害で被害を受けました。私は平成25年に区長を務め、平成25年の冬に町と業者で調査した経過があります。かなり修繕費がかかるということで、補正予算では対応できないので、当初予算の中で検討したいということでありました。その後、3月で私の区長の任期が終わり、自治区の懸案事項ということで次の区長に話を引き継ぎました。

確かに窓口は、土地改良区かもしれませんが、水害ですから、東北電力関係もありますし、いろいろ難しいと思いますが、あれだけ調査をして、この間、何も連絡がありませんでした。今のような説明があればよかった。このまま何も対応しないと、どんどん崩れていく危険性があると思います。

[町]

現場の写真を見せてもらいました。集落が補助を受けて行えるような事業ではないと思いました。具体的に、どのような事業があって、町としての対応をどうするのか、例えば、土地改良区の単独事業（区単事業）で実施した場合、現行制度では、町が1/2、改良区1/4、受益者1/4という負担割合になります。

国の補助事業の場合は、これは採択がかなり厳しいということですが、国が1/2を負担し、残りは市町村、受益者で負担するといった制度になっています。事業費がどのくらいになるか精査が必要ですが、25%程度の地元負担が出てしまいます。

町としては、土地改良区と相談をしながら対応していきたいと思いますが、集落で土地改良区の事業を使ってやるのか、やらないのか、そこはしっかり集落で話し合っていたいただきたいと思います。事業を実施する場合は、県、東北電力への協議（河川協議）が必要になります。

自治区で事業を実施する方針になった場合は、災害復旧では難しいので、土地改良区事業として上げていただいて、おそらく事業費が大きくなると思いますので、土地改良区を交えて話し合いを進めていきたいと思います。

[質問等]

町のこれからのビジョンについて、人口を増やしていかなければならないということで、成人式で参加者に、将来、町に戻って働く意思があるかどうかなどについてのアンケート調査を実施してはどうでしょうか。若い人たちは、町内にはこういう仕事、企業があって、従業員がこのくらいいるということが分からないのではないのでしょうか。そういったことを伝え、考えてもらえるようなアンケートが必要ではないのでしょうか。

[町]

ご意見について来年以降、参加者に記入してもらって、意見などについても求めていきたいと思っています。いいアイデアであると思います。

また、町のホームページなどを活用して町の情報、取り組みを広くPRすることにも力を入れていきたいと思っています。

[質問等]

よりっせを訪れる年間30万人のお客さんに、もっと西会津町について知ってもらうため、ふるさと自慢館を本来であれば、よりっせに併設して建ててもらったほうがいいのではないのでしょうか。町には、渡部鼎などの誇れる先人がいます。全国に町を紹介するために、大いによりっせを活用すべきだと思います。

[町]

今、よりっせとミネラル野菜の家の間が空いていますが、国土交通省で、現在の国道49号側にあるトイレと道路ステーションを壊して、よりっせとミネラル野菜の家の間に、新たに建設し、各施設を一体化する計画です。

そこに、いま意見があったような、中身をどういうふうにするかは検討させていただきたいと思いますが、また、ふるさと自慢館そのものを移設することはできませんが、西会津町をPRするものをそういったところに、しっかりはめ込んで、それ以上詳しい内容は、ふるさと自慢館で展示しています、といったような取り組みもアイデアとしていいのかなと思います。もう少し道の駅で、町をPRする取り組みも必要であると考えます。

[質問等]

工業団地の今後の活用、運用についてはどのように考えているのでしょうか。企業を誘致してこなければ、いじれないということなのでしょうか。

[町]

工業団地にJAが葬祭場を整備するとき、本来、工業団地であるため、目的が違うのではないかといった議論が当時ありました。

しかし、そのままにしておいて、目的が異なるから売却しないということは、ないのではないかということで、買ってもらえるならばということで、売買をした経緯があります。

盛土については、工事の関係で、いろいろなところに埋め立てる土として使ってもらえないか、県の喜多方建設事務所に見てもらいましたが、土の質が悪く、使えるところがありませんと、埋め立ても無理ですと、はっきり言われました。

売ることができない土地を抱えている状況にあるため、抜本的に検討しなければならないと思います。

[質問等]

ハザードマップについて教えてください。危険箇所が減ったり、増えたりすることはあるのでしょうか。

[町]

ハザードマップについては、今年と来年の2カ年をかけて作成することで作業を進めています。

町内に危険な箇所等がありますので、今後は、自治区に入って地元の皆さんの声をお聞きしたり、自治区の皆さんと話し合いをしたりしながら、来年の作成につなげていきたいと考えています。

一番大切なのは、避難するにあたって、どこが一番安全な場所なのかということで、集会所でも安全な場所に建っているのかどうかは分からないわけです。避難所という看板を定めて、一朝有事の際はこの場所に集まってくださいということを、自治区の皆さんと話し合っ

て決める必要があります。

下小島の場合ですと、下小島集会所は、被害を受けるような場所ではないようですので、この後、自治区の皆さんと話し合いをさせていただいて、有事の際は、集会所だったら集会所に、まず集まりましょうと、さらに被害が大きくなって、もっと別の場所への避難が必要な時には、さゆり公園がありますので、さゆり公園に避難していただくというような計画を作っていきたいということです。

[質問等]

防災行政無線に関してですが、天候がいいときは聞こえますが、大雨が降ったりすれば、防災行政無線から離れている家庭は内容が分からないと思います。町として、町民への情報伝達は、どのような方法で行っているのでしょうか。

[町]

一朝有事の際の一番の情報伝達は、防災行政無線になろうかと思います。昨日も、午後11時20分過ぎに警報が発令され、Jアラートと連動し防災行政無線から放送が流れました。このほかの情報伝達では、町のケーブルテレビを使った皆さんへのお知らせということを中心としております。

防災行政無線は、聞こえづらい箇所が多々あるということで、今のアナログが平成33年で終了になるため、デジタル化する必要があります。防災行政無線もこれに合わせた整備をしていかななくてはならないということで、現在使っているアナログですが、ご不便をお掛けしていますが、例えば、スピーカーの向きを変えたりなど、毎年保守点検を行っており、今ある機械を最大限に生かし、今後、デジタル化に向けて整備をしていくこととしておりますのでよろしくお願ひします。

[質問等]

喜多方地区では各家庭にスピーカーのような機器があったと思います。西会津の場合は、防災行政無線だけで、個々の家庭への情報伝達は、おそらく難しいと思います。私たちはスマートフォンを持っており、最近、柳津で災害があったときに、その連絡がメールで入りましたが、町でもやっているのでしょうか。若い世代については、こうした手段がありますが、年配の方の家庭においては、きちんと伝達するすべがなく、各家庭への情報伝達を密にできればと思います。

[町]

西会津町でも警報のエリアメールを実施しています。

防災行政無線のデジタル化に向けた検討の中で、設備の一つに、家の中で内容を聞くことのできる機器があります。いまはつきりそういったところまでやるという計画ではありませんが、そういったことも視野に入れながら対応していきたいと思います。それだけ整備するのに約7億円かかりますので。現在、事業費を含め検討を行っているところです。

[質問等]

防災関連だけではなく、町内で今日、悪い勧誘がありましたといった、防犯関係の連絡などについても、メールなどでもらう方法があればいいと思ったことがあります。ケーブルテレビの場合は、テレビをつけて見ないと分からないということになりますので。

[町]

イベントなどの個別のメール配信は行っていませんが、防災に限っては、メールアドレスを登録していただくと、直接個人のところへ通知がいくことになっています。一般の町民の皆さんで、そこまで登録されている方は少ないようですが。防災に関しては通知できる体制をとっているところです。

[質問等]

お願いになりますが、水土里事業の重点事業について、平坦地の舗装はできないということですが、今回、下小島では、村内の除排雪の関係で、砂利の農道の舗装を考えています。町にはお願いをしているわけですが、これを重点事業で行うことが可能なら、材料費と賃金程度で、集落で施工できると思います。これまでも基本事業では、住民みんなで舗装してきましたので、条件の緩和を考えていただきたいと思います。これまでの事業で、坂道の舗装は相当進んだと思いますので、平坦地まで範囲を広げてもらい事業を利用できるよう条件緩和をお願いします。

[町]

基本的には中山間ということで、傾斜のあるところを対象に実施する事業です。舗装については、傾斜が何%以上、水路については壊れたら新しくするといった形で、これは全体の決まりの中で行っている事業です。このため、現段階では、西会津町だけが異なる基準で行うということは難しい状況で、現制度の中では傾斜があることが前提になっていますのでご了承いただきたいと思います。現行制度のルールを西会津町だけ拡大解釈することはできませんが、路線の全体の状況を見た中で、判断させていただきたいと思いますので、時期をみて、相談をさせていただきたいと思います。

[質問等]

この舗装が制度上難しいということであれば、町から材料をいただいて、除排雪のための道路整備という位置づけでお願いしているわけですので、よろしくお願ひしたいと思います。

延長が長いわけではなく、下には下水処理施設があり車両が通り路面が傷むので優先的に修繕をお願いしたいと思います。

[町]

後で個別に対応させていただきたいと思います。

[質問等]

西林の点滅の信号ですが、事故が多く発生しています。交差点の形から見通しが悪いです。通学路にもなっています。両方、赤の点滅にするとか、通常の信号にするなどの対応をお願いします。

[町]

この前も事故がありましたので、公安委員会に見てもらいました。この結果、道路標識を設置し、一時対応しました。公安委員会に協議したいと思います。